

“ふじのくに”^{しみん}士民協働 事業レビュー結果

(教育委員会)

事業	3	事業名	実学推進フロンティア事業費（オーバードクター等活用事業）
----	---	-----	------------------------------

1 基本情報

実施日／班名	9月6日 第1班	時間	15:25～16:42
担当課名	高校教育課	事業費	71,600 千円

2 レビューの結果 施策目的に対する効果の程度

結果	あまり効果がない	判定区分	県民評価者の内訳	
			大きな効果がある	1
			一定の効果がある	14
			あまり効果がない	15

3 県民評価者の意見（レビューシートから転記、下線があるのは口頭で発表された意見）

(1)見直し・改善策

目的・指標	<ul style="list-style-type: none"> 「事業評価」という言葉が、主観的なアンケート結果を指しているのはいかなるものか。評価に当たって客観性を取り入れるのは難しいとは思いますが。専門委員の言葉にもあったが、目標設定と成果の評価基準が誤っているのではないかと。今回の事業の説明は少し残念だった。専門委員からの指摘等を含めて反省してがんばっていただきたい。 手段が目的化している気がしてならない。 予算に対するニーズ、効果も不明瞭です。 「確かな学力」の育成なのか、それともオーバードクターの臨時採用（雇用）がテーマなのか、主たる課題が明確になっていない。そこに事業費を投入し何を求めるのかよく分からない。 教育の向上になるのか。全然ないとは思いませんが。 目的に対して事業内容が見えてこない。 効果を測る基準がはっきりしないので何ともいえない。目標をどうしたら達成したのかを明確にしてほしい。アンケートにしても生徒に聞くべき。やった方がいいでは賛成できない。説得力がなかった。 教育は長期的な取り組みで成果指標が困難だと思うが、生徒・他教員がオーバードクターについてどのような感想・評価を持っているのか、どういった点でオーバードクターの活用が有効なのかを明確にすべき。 生徒や教職員への影響といった実績が、オーバードクター活用によるものなのかが明確ではないので、別の指標も持つべきである。そもそも博士課程を経た正規教員もいるので、オーバードクターを採用するメリットを考えるべき。 子どもの学力向上のための取組だが、オーバードクターのための取組になっている気がする。何のためか、オーバードクターのためだけなら必要があるのかと疑問がある。この人たちはそもそも先生になりたいのか。何のためにやっているのか曖昧。 <u>効果はアンケート以外、よく分からない。把握が難しいのは分かるが、もっと掘り下げてもらいたかった。</u>
対象・範囲	<ul style="list-style-type: none"> 「確かな学力」もつくと思うし、雇用対策につながる一石二鳥でよい。ただ、どうしてサイエンススクール実施校のうち富士高校に配置されていないのか。 <u>教育の受益者は生徒であり、その辺りの議論が必要である。</u>

事業内容

- ・教育委員会による説明の中で「雇用対策」のことを強調しましたが、これはこの事業の趣旨に合わないのではないのでしょうか。教員免許も持っていないし、学校においては適切でないのでは。説明の中、曖昧な部分がいくつあります。この事業に対して真剣さが足りないとの印象でした。
- ・雇用している人の勤務状態を把握していないのは考えられない。
- ・生徒の目で県は見てほしい。
- ・オーバードクターの教職採用枠を拡大すべき。
- ・専門校に限定する必要はない。オーバードクター（＝勉強ができる方）は勉強が好きな大学受験の成功者なので、その経験が生徒の大学受験に生かせる。（家庭教師になってしまう？）
- ・事業調書にあったとおり、人事評価ができていない。
- ・オーバードクターの人材がダブついていることに注目し、事業化したことは評価できる。ただその人材を継続的に雇用する仕組みがないようだ。
- ・生徒や教職員への影響等の実績を見ると、業務時間の長い常勤のほうが実績内容が濃い。（平成 26 年からは常勤のみになるので、きっと濃い実績内容になると思います）が、高校生にこれだけの内容がきちんと理解できたのかどうか分からないので、その点の回答もあるとよかったです。事業の自己評価欄には、学校側と支援員側の回答しかありません。私は普通科出身なので専門科目の内容はよくわかりませんが、今時の高校生は難しいことを習うんですね。ちゃんと理解できるように、そして将来彼らの役に立つように活動をして下さい。
- ・先生がいないと授業ができないオーバードクターの位置、先生とオーバードクターのコミュニケーション、また生徒にどのような学習への理解が伝わってこない。高校生にとっては一部の生徒には参考になっているとは感じますが、全体では思わない。
- ・オーバードクター雇用も、学生が専門知識に関わることも賛成だけど、そのオーバードクター自身の方たちは、本当に先生として生徒に教えられる人なのか。先生になりたいのか。雇用先がなく、つなぎ雇用でそのまま先生になるのか。一年間で成果は出るのですか。専門雇用で、長期非常勤ではいけないのですか。ならばこの実学フロンティア事業費とは何なのか。
- ・7,000 万円の人件費に見合うかという評価できない。一定の効果はあると考えるが、7,000 万円と見合うかという見合わない。
- ・教員免許を取ることは大変であると思うが、大学と連携して免許をとれるようにするべきではないか。必要な単位はそう多くないと思われる。
- ・過去、現在において大学院卒の人材と仕事をしていますが、大学卒の人材とちょっと違うところがあります（自分の考えにこだわるところがある）。そのギャップを埋めるケアや、仕組みを作れば学力をつける事業になる。
- ・オーバードクターと言われる方の能力（コミュニケーション、教え方、対応力など）が一律以上ある方ですか。仕事がないので丁度いいではないですよ。ただ博士といわれる頭のいい方が必要なのではなく、熱意のある方が必要です。オーバードクターだから採用では、やめて下さい。
- ・教員試験を次年受けるのを条件に雇用する（資格は必要になる）。学識や専門知識を持つオーバードクターのもとで、学生は深い教養を身につけることができる。できれば県内の方を採用していただきたい（人件費は県民の税金なのだから）。
- ・オーバードクターの人材を育成するというには役立っているし、よい事業である。ただし、オーバードクターの方をただ配置するのではなく、そのオーバードクターの方々がどのように授業や取組を行うかをより明確にしたほうが、効果が高まるのではないかと。
- ・どこかの大学の教授を呼んだほうが安くないか。
- ・オーバードクターの方の中で教員試験を受ける方がいたというのは、教師確保のためにもとてもよい傾向です。でも、それが学力向上につながるかといったら、どうなんだろうとも思いません。実績があるのは確かだけれど、現場の声（生徒の声）がもっと綿密に絡んでくるべきで、オーバードクターも含めて教員定数を増やすことが効果を高めると感じた。
- ・オーバードクターではなく、教職員の教育に力を入れてみてもよいのではないかと。

- ・非常勤講師等の身分はやめる必要がある。これらの人達の生活が不安定、これでは良い教育はできない。民間会社のマネをする事はない。
- ・授業のイメージが分からないのですが、そんなに長い時間の拘束が必要なのか。
- ・数値や成果だけでなく、専門支援員側、学校側、生徒側の意見や評価を聞くべきである。
- ・非常勤、常勤に関わらず雇用する意味が見出せない。あくまで生徒が必要としているかが問題であって、刺激になるのは確かだが、教師として雇うべきかは疑問。アンケート項目を見直して、生徒がどう思っているのか把握すること。実績についてはこれらのデータがないので、今のところ価値は分からない。7,000万円をかけるのかどうか、価値はないのではないかと。
- ・専門知識を生かして、結果的に教育の質の向上へ寄与する事業になることを期待したい。

(2)その他の意見

- ・雇用対策の感が強い。
- ・非常勤講師や支援サポーターで済ませられるのではないかと。
- ・制度を変えれば問題はない。
- ・学生にとって年齢の近い教師は親しみも持てるし、質問などもしやすい。オーバードクターの方にとってもプラスになる。
- ・アンケートだけから専門支援員の存在意義を理解することは難しい。生徒にとって、どのくらい頼りになる授業補助になっているのか、資料にある活用例からは部分的にしか分からない。
- ・雇用促進事業の看板で行うなら分かる。
- ・継続9人、新任3人。どんな人が先生か博士か分からないけど、博士はすごいと思う。私も勉強したくなりました。何かを研究する意欲やがんばることは宝です。子供も意欲やがんばる姿勢を持ってくれたらうれしいです。博士の人柄が分かればいいのに、分からない。先生ばかりではないかもしれないのですか。
- ・高校生の息子は、今はがんばる姿が見られませんが、いつかがんばり始めてくれると待っています。がんばり始めたときに、いろいろな教育関係者が、こんなに話し合っていることが分かりました。がんばり始めてくれたときに、いろいろな人達の話し合いが役立ってくれるとありがたいです。親として、がんばれる人間を育てなくては、他人事でなく考えたいことです。がんばり始めが遅い。親も年をとるので、どう期待していいか。人生について考えたいところです。
- ・大学が大衆化して、博士号も様々なレベルがある。確かな専門性があるのか、専門性を突き詰めすぎて高校生のレベルに合わないこともあったと考えるが、この資料では分からない。
- ・オーバードクターの確保が出来ればよいが、安定して雇用出来るのか。オーバードクターは生活出来るのか。
- ・普段の授業の範囲の延長線上になるのか。生徒にとってムダな時間にならなければよいが。
- ・大学生の私としては、自分の学校に非常勤の先生が来て指導してもらったらとても嬉しいし、視野も広がりますし、やってほしいことです。
- ・果たして学生たちに大きなプラスになっているのか。
- ・この事業のおかげで、社会で柔軟に対応できる人材育成になるとは思えない。
- ・ある実験などを行うために必要な知識があるならば、わざわざ1人1人雇用するという考えがよく分かりません。勉強すればいいのでは。
- ・その活動によって、どのような良い所があったかという具体例がないことは、効果を判断するのに少し納得できません。
- ・今の教師だと力不足なのか。
- ・学校現場にオーバードクターが本当に必要なのか。
- ・サイエンススクールの事業では理系を目指す子どもが増加していると聞いたが、理系の教員不足、博士号取得後に就職できないという現状の矛盾があるのではないかと。
- ・生徒が、この事業で本当に効果があったのかが見えてこない。
- ・「生徒の学力」に生かしているのかということ考え込んでしまう。